

2019年 第1回 定例会報告

2018年度補正予算と2019年度当初予算を可決

大分県議会第1回定例会は2月25日(月)に開会し、3月15日(金)に閉会しました。

今回、2019年度一般当初予算は統一自治体選挙を控え、最低限必要な経費を盛り込んで編成する「骨格予算」となる総額5,815億7,900万円の予算案が上程されました。

この当初予算については、選挙後の補正予算で、新知事の意向を反映させた事業が「肉付け予算」として上程されることとなります。

2018年度補正予算では、国の補正予算を受け入れて河川やため池の改修による自然災害対策など約206億円の事業費が計上されるとともに、貯金にあたる財政調整基金が上積みされ、標準財政規模の10%という目安である320億円を越える351億円となりました。

2018年度補正予算は3月5日(火)に、2019年度一般当初予算は議会最終日にそれぞれ賛成多数で可決されました。

外国人総合相談センターを設立

昨年末、「特定技能」という新しい在留資格で外国人労働者を受け入れる出入国管理法の改正が成立しました。国会で激しく議論される中、野党の追及に対する答弁から「総合的対応策」が進められることになりました。

この「総合的対応策」となる外国人総合相談センターは、県庁所在地や政令市など全国100箇所に設置されることになり、大分県でも補正予算で1千万円の整備費、当初予算で2千万円の運営費が予算化されました。

この事業は、福岡にあるコールセンターに相談事業を委託し、必要に応じて相談者の最寄りの市町村役場の会議室等で面談相談を設けるといいます。言語も英語をはじめ6カ国語に対応するとしています。

原田たかし後援会への加入をお願いします

原田たかし後援会への加入をお願いします。年会費は1家庭1,000円です。加入していただいた方へは、年4回発行しています「原田たかし会報」と県民クラブ会報「県民ひろば」をお送りいたします。加入していただける方は、下記まで御連絡をお願いいたします。

原田たかし事務所 ☎0977(25)0011

〒874-0838 別府市荘園町3組の2 ファミマ別府荘園店前

原田たかし後援会 会長 大城正二

「妊婦加算意見書案」で討論に登壇



今定例会では、他会派から「妊婦が安心できる医療提供体制の充実と健康管理の推進を求める意見書案」が提案されました。

妊婦の方々の外来診療については、胎児への影響に注意して薬を選択するなど妊娠の継続や胎児に配慮した診療が必要であることや、妊婦の方々にとって頻度の高い合併症や、診断が困難な疾患を念頭に置いた診療が必要であるとして、昨年4月から加算が新設されました。

しかしながら、「妊娠中か聞かれてないのに、加算された」とか「妊婦であることと関係のない、コンタクトレンズの処方にも加算が適用されていた」など、怒りや不信感を訴える声が多く挙がり、厚生労働省は「妊婦加算」を本年1月から「大臣の定める日まで」凍結しました。

妊婦の方々への丁寧な診療の推進は当然ですが、今回の問題はこの制度と運用などについての議論や説明がそもそも不十分であり、妊婦の方々への配慮に欠けていたために起きたと私は考えています。

この意見書案について、県民クラブを代表して討論に立ちました。妊婦の方々が自分たちが応援されている、大切にされていると思えるような政策こそが今必要ではないでしょうか。

具体的には、妊婦加算は、加算分を国庫で負担する、または助成や還付をするなど妊婦の方々に自己負担を強いることのない制度を構築すべきであると考えています。

これから新たな制度設計が議論されていくこととなりますが、少子化対策として有効となるために、妊婦の方々へ経済的配慮がなされた制度が実現できるよう求めました。

公式アカウント「LINE@原田たかし」開設しました

ラインをご利用されている方は、QRコードからぜひ御登録ください。活動報告などをお伝えしていきます。

ぜひ、お知り合いの方に御紹介ください。



私のHPにも議会報告・活動報告を掲載していますので御覧下さい。

HPは「大分県議会 原田たかし」でも検索できます。

原田たかしHPのQRコード→

